



農学部 100周年 記念事業について

宇都宮大学農学部は、その前身である宇都宮高等農林学校が1922（大正11）年に設立されてから、2022年にお陰様で100年を迎えました。当初、2022年の100周年記念式典開催に向けて、農学部100周年記念準備委員会を中心に準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて式典を1年延期し、2023（令和5）年11月18日（土）に開催することといたしました。ぜひ、100周年の喜びを同窓生の皆様と盛大に分かち合えるよう、峰ヶ丘同窓会と農学部が密接に連携しながら100周年記念事業に取り組んで参ります。

1. 記念式典・講演会・祝賀会

2023（令和5）年11月18日（土）に下記のように開催いたします。

記

〈記念式典・講演会〉

- ・日 時：2023年11月18日（土） 15：00～17：30（14：00から受付開始）
- ・開催場所：宇都宮ライトキューブ 3F中ホール（宇都宮市宮みらい1-2）
- ・講演者：「100周年を振り返り」 杉田 昭栄 名誉教授（生物資源科学科）
「私の歩みと宇大農学部」 同窓生 計4名
- ・参加対象者：来賓、同窓生、学生、教職員（定員500名程度）
- ・参加費：無料
- ・その他：当日参加も受け付ける予定ですが、会場収容人数の定員がございますので、参加ご希望の方は、なるべく事前申込をお願いいたします。

〈祝賀会（懇親会）〉

- ・日 時：2023年11月18日（土） 18：00～20：00（17：00から受付開始）
- ・開催場所：ホテルマイステイズ宇都宮11階 グランドホール（宇都宮市東宿郷2-4-1）
- ・内容：立食パーティー（椅子も用意する予定です）
- ・参加対象者：来賓、同窓生、学生、教職員（定員280名）
- ・参加費：10,000円（当日、受付にてお支払いいただく予定です）
- ・その他：事前登録制といたします。参加ご希望の方は事前申込をお願いいたします。

〈開催内容、概要〉

J R宇都宮駅東口の宇都宮駅ライトキューブにて、記念式典＋記念講演会を開催いたします。「農学部の100年と未来への歩み」と題し、来賓として、同窓生である福島県伊達市長須田博行氏（昭和56年農学部卒業）、基調講演者として、杉田昭栄名誉教授をお招きしております。さらに、農学部の様々な年代・学科を卒業され、ご活躍の方々にもご登壇いただき、「私の歩みと宇大農学部」というテーマでご講演いただく予定です。同窓生の皆様に喜んでいただけるよう準備しておりますので、ぜひご出席いただけますと幸いです。

記念式典＋記念講演終了後、J R宇都宮駅東口の宇都宮ホテルマイステイズにて祝賀会（懇親会）を開催いたします。280名程度を上限とした事前参加登録制の立食パーティーとする予定で、皆様の親睦を図れたら思っています。もし立食は厳しいという方がいらっしゃいましたら、テーブル席もご用意いたしますので、ご相談ください。



記念式典＋記念講演を開催予定の宇都宮駅東口ライトキューブ（ライトキューブHPより転記）

尚、大学キャンパス内での100周年関連イベントはございませんが、同日に大学祭がキャンパス内で開催されている予定です。式典は夕方からですので、式典前にキャンパスにお立ち寄りいただくことも可能なスケジュールです。峰ヶ丘講堂内は見学できるように準備しております。

式典・講演会、および祝賀会に出席ご希望の方は、本誌の2ページ目を参考に、折り込みの返信用ハガキ、またはQRコードから、10月10日までに事前参加申し込みしていただきますよう、ご協力お願いいたします。追加の情報は農学部のホームページでお知らせいたします。

2. 創立百周年記念誌—同窓会報CD付き—〈同窓会—農学部共同制作〉

農学部創立100周年記念誌を作成しております。今回は、記念誌や記念アルバム作成に実績のある広告代理店（株式会社ブレイン）と契約し、読みやすく、懐かしい写真を多く盛り込んだ記念誌を目指し作成を進めています。

内容は、「写真で見る農学部100年の歩み」から始まり、「90年の歩みダイジェスト」、「近10年の歩み」、「農学部の資料（現任教員の研究室と専門分野、キャンパスマップ、農学棟の教室配置図、進路状況、近年の就職先、講義カリキュラム、卒業生数の推移、同窓生の所在県データなど）」から構成され



創立100周年記念誌：表紙



電子データ化した同窓時報。PDFデータをCDにし、記念誌に同封いたします。

1 1922（大正11）～1933（昭和8） 宇都宮高等農林学校の創立

創立簡史

西洋農法の導入に伴う高等農業教育の始まり

西洋農法の導入を進める明治政府は、北海道の開拓技術者養成を目的に1876（明治9）年に札幌農学校（現・北海道大学農学部の前身）を開校した。2年後には欧米の学理と技術の習得を目的とした駒場農学校（現・東京大学農学部の前身）を誕生させた。1899（明治32）年に実業学校令が施行され、東北振興を目標に盛岡高等農林学校が1902年（明治35）に創設された。翌03年に専門学校令が定められると同時に実業学校令も改正され、実業学校のうち高等教育を実施する教育機関を実業専門学校とした。これに基づく農林専門学校として、08年に日露戦争後の国運発展に伴い、南方富源開発の使命を帯びて鹿児島に第二高等農林学校（現・鹿児島大学農学部の前身）が設置された。

大正期に入ると中等教育の発展で進学者が増加し、高等教育学校に進みたいという国民の要望が高まった。臨時教育会議の答申でもこの社会情勢を鑑みて高等教育を拡充する方針が提呈され、実業専門学校の発展をみることとなる。

1922（大正11）

宇都宮高等農林学校の創設

明治期には盛岡、鹿児島、鹿島の2高等農林のほか、東京高等蚕糸（1896年蚕業講習所、1913年文部省移管）、京都高等蚕糸（1899年蚕業講習所、1913年文部省移管）、上田蚕糸専門学校（1910年創立）の3校が設立された。1918（大正7）年に成立した原内閣の中橋徳五郎文部大臣は第41回国議会の賛成を得て、翌19年度から24年度に至る6年間に高等教育機関の拡張を行うことになった。宇都宮高等農林学校はこの拡張計画の一環で、先述の5校に続く高等農林のナ



宇都宮高等農林学校創設を公表する1922年10月21日付電報

ンパースクールの一つ、「第八高等農林学校」として考えられた。ナンパースクールとは、高等学校を8校から25校へ、高等工業を8校から18校へ、高等農林・蚕糸を5校から10校へ、高等商業を5校から12校へ、などとする高等教育機関増設施策を反映したものである。従って宇都宮高等農林学校と同時に鳥取（1920）、三重（1921）、岐阜（1923）、宮崎（1924）も創立した。

宇都宮高等農林学校については、22（大正11）年10月21日、勅令第441号（文部省直轄諸学校官制中改正の件）をもって官制が公布された。同日勅令第442号による学校職員定員令の改正により、校長1名、教授5名、助教授2名、書記4名の定員が認められ、前年から創立委員を委嘱されていた元盛岡高

等農林学校校長佐藤義長が翌11月27日に校長に任ぜられた。

1922（大正11）

校地決定と学科設置

1922（大正11）年12月15日、文部省告示第577号で、校地は河内郡平石村（現・峰ヶ丘キャンパス）とされ、翌23年4月より授業開始となった。ついで文部省令第8号（23年2月14日）をもって宇都宮高等農林学校校規程が公布され、農学科、林学科、農政経済学科の3学科が置かれた。この3学科が置かれたのは、初代校長佐藤義長が、農業教育には幅広い農業指導者の育成が必要との構想を有していたことが大きい。

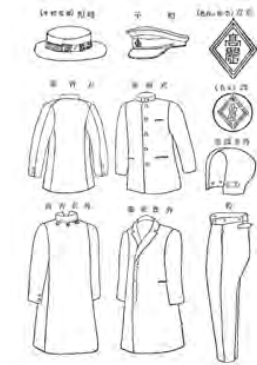
職員の内定は、年次計画による学年進行に伴い、その後は勅令第229号（23年5月8日）で教授7名、助教授6名に改正され、勅令第123号（24年5月16日）により教授14名、助教授9名、書記5名に、また完成年度では勅令第216号（25年6月13日）をもって教授18名、助教授11名、書記6名に改められた。

1923（大正12）

第1回入学宣誓式挙行、3学科84名が入学

1922（大正11）年11月27日から事務取扱が始まり開校準備が進められた。翌23年2月10日に学生募集が公示、3月18日に入学試験が行われた。210名が志願、農学科34名、林学科20名、農政経済学科30名が合格し、4月16日に第1回入学宣誓式が挙行された。また同日を開校記念日と定めた（のちに官制公布の10月21日に改定）。翌5月に校友会が結成され、学術、運動、海外研究、娯楽、その他分野で活動した。校友会は戦時体制となって1940（昭和15）年11月に報国団が結成された際に解散した。

当初の校舎設備は実験室4棟、寄宿舎および同附属家屋4棟、生徒研究所兼雨天体操場だけで、実験室内に臨時教室を設けて授業を行った。23（大正12）年5月に敷地6万7952.22坪と実験室建物（1138.5坪）が文部省から引き渡された。開校初期は農場建設のため1年生が毎日午後1時に実験農場の築工をみた。植物庭園は23年11月21日に「国民精神作興に関する



宇都宮高等農林学校制服



宇都宮高等農林学校旗

詔書」の捧読式後の記念事業として学生が造園に着手、本館玄関前のロータリーマツ・カエデの植え込み、本館南側の作庭を進めた。平石村、瑞穂野村の青年団の奉仕も得て26年秋に完成した。翌27（昭和2）年11月に庭園管理室と作業室、29年に護国栽培池、31年に鉄骨囲畜室と簡易温室ができ、ブドウ

1 2011 (平成23) ~ 2017 (平成29) 東日本大震災の影響と学科・研究センターの再編

2011 (平成23) 年 東日本大震災の発生と本学の動き

2011 (平成23) 年3月11日午後2時46分頃、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生し宮城県北部で最大震度7、宇都宮市や真岡市など栃木県内5市町で震度6強を観測した。巨手、宮城、福島県を中心とした太平洋沿岸部に大津波が押し寄せ、翌12日には東京電力福島第一原子力発電所事故が発生。この東日本大震災による死者は1万5900名(震災関連死を除く)、行方不明者は2,523名(2022年3月1日時点、警察庁発表)となり、栃木県内でも4名が死亡、130名以上が負傷した。

宇都宮市内では負傷者9名、全壊9棟、半壊242棟、一部損壊1万9,385棟(2022年3月1日時点)の被害が出た。本学では附属図書館の蔵書の落下や機器の落下による破損、一部設備の破損はあったが、施設が全面的に耐震補強された後だったこともあり、大

**震災ボランティアに参加して
農学部3年匿名(男性)**
被災地に行ったボランティア活動に参加したのはまだ2回ですが、それ以外にも機密なものでした。作業をするにあたって現地の方とお話しする機会があったのですが、その際私達を気遣い、時折差し入れをいただくなど、本当にありがたかったです。最後、「ありがとうございます」の言葉をいただいたときには、これを返していかなければならないと強く思いました。そして、困難な状況にあっても強く優しくたくましく生きてほしいと、自分も恥ずかしい生き方できないと思ったのです。(「Uknow」第26号2011年11月20日付P14より抜粋)

規模な被害は出なかった。ただ春休み期間中であり、帰省先で被災した学生もいた。卒業式、入学式はそれぞれ中止されたが、授業は4月から通常通り行われた。被災学生に対しては全学的に入学料および授業料の免除等の措置が取られた。

峰ヶ丘同窓会会員では宮城県で2名、栃木県で1名が亡くなった。同窓会は4月13日に青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉、東京の各支部長に見舞状を送り、5月9日には特に被害が大きかった宮城、岩手、福島、青森、茨城5県在住の会員約1,000名に見舞状を送った。学生会員の中で自宅もしくは実家が被災した学生9名に、学費支援金または災害見舞金を支給した。

本学では被災地学生ボランティア派遣に向け4月16日に宮城県石巻市を視察、同月29日～5月1日の3日間で約160名を派遣した。バス運賃費や混出し作業に必要なカップ、ゴム手袋、粉塵マスク、長靴などの費用は、大学による地域貢献活動支援のために創設された「峰ヶ丘地域貢献ファンド」や大学内で募った震災義援金で充てられた。現地では学生が高校体育館周りの泥出し、幼稚園舎の清掃、寺院の墓地や通路の泥の掻き出しなどを行った。その後



宮城県石巻市への被災地学生ボランティア派遣(2011年4月29日～5月1日)

時の記憶
附属農場を利用した被災地の子どもへの学習支援
2013(平成25)年8月7、8日の2日間、東日本大震災の被災地の子どもへの学習支援として、宮城県亘理郡の中学生を真岡市の附属農場に招いた「わたり・やまもとキッズサマースクールinとちぎ」が開催された。参加者22名は附属農場に宿泊し、動物とのふれあいやアイスクリーム作り、学生との交流を楽しんだ。学生ボランティア支援室の学生9名を中心に企画運営した。(参考:本学HP)

附属農場で行われたキッズサマースクール(2013年8月)

も数十回にわたり現地への学生派遣だけでなく、被災者を招いたイベントの開催などで支援を続けた。(参考:栃木県HP、宇都宮市HP、「Uknow」第25号2011年7月20日付P7、「峰ヶ丘会報」第149号2011年10月20日付P3、5)

2011 (平成23) 年～ 地域と連携した放射性物質汚染の低減化

2011 (平成23) 年3月の東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性物質は栃木県内にも飛散し、農耕地の汚染が問題になった。農・食・環境における放射性物質の循環を断ち切る技術対策を確立するために同年6月、本学部とバイオサ

イエンス教育研究センターが協力し、県内の農耕地40カ所の放射線量を測定した。この測定活動は農林水産省が同年8月30日に発表した「農地土壌の放射性物質濃度分布図」の作成にも役立てられた。また栃木県農政課と本学部で栃木県放射線物質対策農業技術委員会(委員長は農政課次長、副委員長は農学部長)を立ち上げ、県内の農業関連放射性物質問題の現状分析と対応策について検討した。農耕地以外にも本学教育学部と協力し、栃木県北部の学校などで放射性物質が濃縮・蓄積している場所の汚染土壌を除去する活動を実施した。(参考:「Uknow」第26号2011年11月20日付P7)

2012 (平成24) 年～ 震災被災地現地調査の実施

2012 (平成24) 年度東日本大震災に係る災害復興再生に向けた宇都宮大学「学長支援プロジェクト」として13年1月15日、農業環境工学科の公開授業「震災復興と農村計画」が実施された。宮城県東松島市の被災者と行政関係者を招き、震災当時の様子や復興の現状と課題について話題提供してもらった。学生や一般参加者も加わって意見交換した。1ヵ月後の2月15日、本学部の学生●名が東松島市大曲地区に出向き、視察と調査を行った。農地や大曲第二排水機場、定川飯橋切工事現場などを訪れ、現場で行われているEC測定(簡易塩分濃度測定)を実施した。



農耕地での放射線量測定(2011年)

創立100周年記念誌「近10年の歩み」の一部

ており、90年誌以降の近10年の内容が厚くなっています。100年の歴史と農学部の今がわかる内容になっておりますので、ぜひご購入ください。

また、長年に渡り発行してきた、峰ヶ丘同窓時報・峰ヶ丘会報を、電子データ(PDF)化いたしました。100周年記念誌にはこれら会報のPDFデータの入ったCDを同封する予定です。懐かしい記事もご覧いただけます。

この100周年記念誌は400冊限定で、1冊5,000円にて販売いたします。購入希望の方は、上記と同様に、本誌に折込みの返信用ハガキ、またはQRコードから、事前申し込みしていただきますよう、ご協力お願いいたします。支払いと受け渡しの方法につきましては、購入希望者の方に別途お知らせいたします。

3. 記念名簿〈同窓会〉

2005 (平成17) 年に個人情報保護法が施行されてから、会員の情報開示者が年々減少、名簿購入者も会員全体のわずか5%となり、名簿の利用価値が大きく変わりました。名簿発行について再度審議し、2023 (令和5) 年の農学部100周年記念に合わせての発行を最後に、冊子での販売は終了することといたしました。最後の冊子での名簿として作成業者(株式会社サラト)に委託しながら作成しています。もうすぐ完成予定です。皆様のご協力に感謝申し上げます。

4. シンボルマーク

宇都宮大学農学部が100周年を迎えることを広く学内外に広報するため、シンボルマークを作成しました。デザインを2022年4月1日～2022年5月31日に公募したところ、222作品の応募があり、農学部の教職員・学生による投票により、栃木県にお住いの新保怜奈さんの作品が選ばれました。

ご本人からは、「人と自然が築き上げた100年をイメージし、やわらかいタッチのイラストを入れ温かみのあるロゴに仕上げました。稲を強調し、生き生きとした輝く稲のように、農学部が成長してほしいと願いを込めデザインしました。」と作品に関するコメントをいただきました。また、100周年を迎える農学部に対して、「宇都宮大学農学部100周年誠におめでとうございます。妹がこの学部におりまして多くの事を学び、また、素晴らしい先生方や友人と出会い立派に成長した姿を見せてくれました。この100年の農学の歴史をこれからの更なる発展に生かし、より良い未来となりますよう、願っております。」との嬉しいコメントもいただきました。

農学のすばらしさを次の100年へ



宇都宮大学農学部
シンボルマーク

5. 記念Tシャツ

農学部100周年記念Tシャツを、県内でアパレル・雑貨・インテリアの企画・開発・販売事業を行なっている、「トチギマーケット株式会社」に依頼し、作成していただきました。2デザインで2色の、計4種類のTシャツが出来上がりました。

この記念Tシャツはトチギマーケットのオンラインショップや店舗（ウツノミヤテラス店など）、および宇都宮大学生協で販売中です。2023年6月時点で400枚程ご購入いただいております（1枚当たり500円の寄付金付きで販売しており、現在のところ計20万円ほどの寄付を頂戴いたしました）。



記念Tシャツ

6. 記念ポスター

100周年記念ポスターを、農学部の広報係を務めている大野千弥さん（宇都宮大学教育学部 2004年卒）に作成していただきました。峰ヶ丘キャンパス1号館正面玄関横のショールーム他、農学部建物内で掲示しています。

7. 附属演習林に描く「U」の字

100周年を記念した農学部のシンボルを作成するため、附属演習林に「U」の字を描く事業が進行中です。塩谷町船生の演習林内の一部を伐採し、宇都宮大学の頭文字の「U」の形にヒノキを植林しました。近隣の道路からもUの字がしっかりと確認できるようになってきています。



附属演習林に描く「U」の字



記念ポスター

8. 演習林材でつくった記念箸〈同窓会〉



演習林材でつくった記念箸

峰ヶ丘同窓会から演習林材でつくった記念箸を贈呈いたします。

船生演習林の植林材（ヒノキ）を使った記念箸を、森林科学科卒業生で木工作家の倉持海人さんに制作していただいております。

「記念式典・講演会」に事前申込いただいた農学部卒業50周年以上（昭和48（1973）年3月以前に卒業）の同窓生の方、および「記念祝賀会」に事前申込いただいたすべての同窓生の方などに贈呈させていただく予定です。

「農学部卒業50周年式典事業」については今後も継続していく予定です。

〈寄付金のお願い〉

今回、「宇都宮大学3C基金 寄付申込書兼振込書」を同封させていただきました。

農学部100周年記念事業にご賛同いただける場合は、寄付の目的欄で「④」（農学部100周年記念事業への支援）にチェックをお願いいたします。式典や100周年誌をはじめとした記念事業に大切に活用させていただきます。

今後も峰ヶ丘同窓会、農学部、連携しながら100周年記念事業に取り組んで参ります。どうか皆様のお力添えをお願い申し上げます。